

【公報種別】特許法第17条の2の規定による補正の掲載

【部門区分】第6部門第3区分

【発行日】平成21年10月22日(2009.10.22)

【公開番号】特開2007-172592(P2007-172592A)

【公開日】平成19年7月5日(2007.7.5)

【年通号数】公開・登録公報2007-025

【出願番号】特願2006-313406(P2006-313406)

【国際特許分類】

G 0 6 K	19/077	(2006.01)
H 0 1 L	21/3205	(2006.01)
H 0 1 L	23/52	(2006.01)
G 0 6 K	19/07	(2006.01)
H 0 1 L	21/822	(2006.01)
H 0 1 L	27/04	(2006.01)

【F I】

G 0 6 K	19/00	K
H 0 1 L	21/88	T
G 0 6 K	19/00	H
H 0 1 L	27/04	E

【手続補正書】

【提出日】平成21年9月4日(2009.9.4)

【手続補正1】

【補正対象書類名】特許請求の範囲

【補正対象項目名】全文

【補正方法】変更

【補正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項1】

無線通信を行うためのアンテナと、  
前記アンテナに電気的に接続された高周波回路部と、  
前記アンテナに電気的に接続されたロジック回路部と、  
前記ロジック回路部により制御されるメモリ回路部と、  
前記高周波回路部と前記アンテナを電気的に接続するパッドとを有し、  
前記メモリ回路部の一端部と、前記パッドの一端部とは、少なくとも直線距離で500  
 $\mu$ m以上離れていることを特徴とする半導体装置。

【請求項2】

無線通信を行うためのアンテナと、  
前記アンテナに電気的に接続された高周波回路部と、  
前記アンテナに電気的に接続されたロジック回路部と、  
前記ロジック回路部により制御されるメモリ回路部と、  
前記高周波回路部と前記アンテナを電気的に接続するパッドとを有し、  
前記メモリ回路部の一端部と、前記パッドの一端部とは、直線距離で500  $\mu$ m以上1  
mm以下離れていることを特徴とする半導体装置。

【請求項3】

請求項1または2において、前記アンテナは直線状であることを特徴とする半導体装置。  
。

【請求項4】

請求項1または2において、前記アンテナはコイル状であることを特徴とする半導体装

置。

【請求項 5】

請求項 1 乃至 4 のいずれか一において、前記アンテナはアンテナ用基板に設けられ、前記パッドに圧着されていることを特徴とする半導体装置。

【請求項 6】

請求項 1 乃至 5 のいずれか一において、前記メモリ回路部は、複数のメモリセルを有し、前記メモリセルはスイッチング素子及びメモリ素子を有することを特徴とする半導体装置。

【請求項 7】

請求項 6において、前記メモリ素子は、一対の電極間に挟持された有機化合物層を有する有機メモリ素子であることを特徴とする半導体装置。